

令和 5 年度

事業所名 : グループホームあてるい

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0391500352		
法人名	株式会社ヒトタ商事		
事業所名	グループホームあてるい		
所在地	〒023-0003 岩手県奥州市水沢佐倉河字石橋7番地		
自己評価作成日	令和6年2月10日	評価結果市町村受理日	令和6年6月3日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

健康で穏やかに皆様が安心して過ごせるよう、そして、満足して頂ける様サービス、体制に努めております。

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/03/index.php?action_kouhyou
----------	---

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は、中心市街地から東部の文化会館や図書館のある郊外型商業地域にあり、近隣には、ショッピングモール、飲食店、ドラッグストア等が多数立地している。敷地の入口側にある系列の有料老人ホームの事務員や栄養士の支援が受けられ、非常時の避難先にもなっている。協力医の月2回の訪問診療や医療連携による看護師の定期的な健康管理により、健康面での安心感は大きく、歯科医や眼科医が急なトラブル発生時にも訪問診療で対応する体制が整っている。事業所南側には、菜園があり、利用者は職員と一緒に苗を植えたり収穫をしたり、旬の採れたて野菜や果物を食材やデザートとして活用している。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

[評価機関:特定非営利活動法人 いわたの保健福祉支援研究会]

令和 5 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホームあてるい

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅰ.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念の唱和を朝のミーティングの時間や、会議等に行っている。その理念を共有し、支援するよう心掛けている。	事業所理念はホール中央の壁に掲示され、利用者もいる中で唱和している。令和3年度に全職員で検討し「心を込めた親切なサービスに努めます」を開設当初の理念に追加した。数年前に検討した当時に比べ、実践状況が改善していると管理者は実感している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナ・インフルエンザ予防のため、交流を控えている。	自治会に加入し市の広報紙が定期的に届いている。コロナ禍前には、地元常盤地区の祭りが近隣商業施設の駐車場で利用者席も準備して開催され、約半数の利用者が参加し、事業所にはゲームや紙芝居のボランティアが来所していた。周辺には商業施設が多く立地し、事業所入口には「たい焼き屋」、向いには「回転寿司店」、両隣には「お好み焼き屋」や「ドラックストア」「コンビニ」があり、新興住宅も多い環境下にある。毎月発行の事業所広報「あてるい通信」を運営推進会議委員、来訪者等に配布し情報提供に努めている。	災害発生時の入居者の見守り、誘導等に地域の方々の協力が得られるよう運営推進会議等での検討を期待します。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	交流が図れていない。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	職員不足により、開催を控えている。	今年度前半の会議は書面会議としたが、10月以降は集合開催に戻している。委員は、利用者家族2名、地元区長、地元民生委員2名、市役所職員で構成している。会議では、入居者や待機者の状況、行事報告等を行い、毎月発行の「あてるい通信」は利用者の表情や行事を写真で確認出来ることもあり好評である。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	日頃から当法人の運営や活動についてご鞭撻をいただいている。	運営推進委員を依頼している担当課の長寿社会課には、要介護認定申請の代行のほか、空き状況や事故の報告などで連絡を密にしている。介護相談員2名が年2回来所し、入居者と面談し傾聴してくれている。地域包括支援センターからは、空き状況や困難事例の問い合わせ等のほか、豪雨時には市担当課から浸水被害の確認電話をいただいている。	

令和 5 年度

事業所名 : グループホームあてるい

2 自己評価および外部評価結果

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	日中の玄関扉の施錠は行っていない。	日中、日勤者がいる時間帯には玄関を施錠せず、玄関を出ると幹線道路に近いため、念のためチャイム音が設置されている。今年度の研修は、スピーチロックやセルフチェックによる防止策検討などのテーマで、全職員が参加して2回実施した。居室でのセンサー利用者は無く、日常的にスピーチロックの軽減に努めている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	管理者は、テレビやニュース等、虐待に近いニュースなどを職場で開示したり、職員とともに考えたりしている。行き過ぎた声がけなどは、発見した場合はその都度注意している。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在必要性のある入居者様はいない。研修のテーマとして検討していく。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	利用契約の際には、契約書、重要事項説明書提示、パンフレット、利用料金表等を使用。十分に説明し、ご理解等を得ている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	日常生活から伺える希望を取り入れ、個別に対応する体制にある。	遠隔地にお住まいのご家族とは、主に電話でのやりとりで連絡を取っている。訪問診療を利用している利用者が多く、家族と顔を合わせて話が出る機会は、面会を目的に来所した際に限られている。面会は多い方で週1回、少ない方で年2回程度となっている。運営に関しての家族の意見は殆ど無く、利用者の支援についての要望や職員の接遇改善等が話される。毎月、請求書発行に併せて「あてるい通信」に連絡事項を添え書きしたものを送付しており、写真で入居者の様子が分かりやすいと好評をいただいている。	

令和 5 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホームあてるい

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎日のミーティング等で日常的に意見や提案を聞く期間を設けている。	利用者支援については、ミーティング時に気軽に話し合われ、職員間の情報交換も円滑に行われている。日曜日は入浴休止日とし、時間に余裕のある利用者の過ごし方について、行事を企画したり、レクリエーションを取り入れる等、得意な職員が中心になって提案し、様々な取り組みで利用者の笑顔を引き出している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	努めていると思う。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	フォローアップ研修の動画を見ながら、研修している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	見合わせている。		

Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援

15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	出来るだけ要望に沿ったケアプラン作成し、安心して入居頂ける様努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族様との信頼関係を築くため、丁寧な対応をするなど、心掛けながら対応している。		

令和 5 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホームあてるい

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご家族様の居宅ケアマネや、サービス利用時に訪問・情報を得てご本人の意向に沿ったケアに努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	食事等の際は、職員は同じテーブルに座り、一緒に食事をしている。また、テーブルふき、食器洗いなど、職員と一緒に作業することで、連帯感も生まれている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	定期的なご家族様への情報伝達を行っている。ご家族様の意向に関しても耳を傾け、良い関係に努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	本年度も一部面会制限をしている。	面会は、ホールや居室ではなく、玄関での面会としている。ご家族だけでなく、友人の面会がある利用者が3名程おり、社交的な利用者が多い傾向がある。2名の利用者がお盆や正月に帰宅し、法事や外食等で出かける利用者もいる。定期的に来所する訪問診療の医師や健康管理の看護師、理容師等が馴染みともなっている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者同士、協力し合いながら、毎日生活している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	必要に応じて対応させていただいている。		

令和 5 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホームあてるい

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価		
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント						
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご家族様等と連携しながら、ご本人の思いをかなえられるよう努力している。	殆どの利用者は言葉で自分の思いを伝えることが出来ている。1名の難聴の利用者の意向や意思確認は、口元の動きを注視したり、筆談をして確認している。他の利用者からは、「実家がどうなっているか様子を見に行きたい」「〇〇が食べたい」「家に帰りたい」等の希望が話されることが多い。利用者全員が女性であり、着替えの洋服はそれぞれに選んでいる。最近入居した方から「みんなで〇〇したい」との要望が頻繁にあり、歌に合せた手遊びの機会が増えている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	利用当初に詳しく聞き取りをしてから、関わる方々も同一人が多く、新しい情報が聞き取れない現状がある。ご本人のペースを大切にしている。			
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	個別日誌を活用しながら、変化に柔軟な対応をしている。			
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	介護計画は、短期目標期間の3か月毎に見直しを行っている。モニタリングは担当職員を中心に全職員が参加している。	入居当初の計画作成前に、ご家族、利用者がともに2回来所いただき、センター方式のシートを用いて介護計画を作成している。介護計画は介護支援専門員が中心となり作成しているが、管理者や担当職員が確認したご家族の意向等はそ	その都度伝えている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	入居者様の日々の様子を介護記録、個別ケース記録・業務日誌を用いている。			
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	毎日のミーティングでの申し送りや、業務日誌、個々のケース記録等でモニタリングし、現状の把握に努めている。また、日頃の日常会話やご家族様の意向を傾聴している。			

令和 5 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホームあてるい

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	一部面会制限している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	提携医療機関があり、月2回訪問診療にきていただいている。入居前からのかかりつけ医が良い方は、ご家族様対応にて受診している。	入居前から利用しているかかりつけ医に家族同伴で受診している利用者は1名である。家族の高齢化によりこれまでのかかりつけ医から訪問診療へ切り替える利用者もある。市内には医療機関に恵まれ、義歯や差し歯のトラブルでかかりつけの歯科医師や眼科医師の訪問診療も受けることが出来る環境下にある。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週1回(毎週木曜日)の訪問看護があり、健康管理、相談を継続、適宜指導を受けている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入退院の際は、ご家族様、医療機関と連絡を密に取り、利用者様の情報を共有している。状態を把握しながら、今後について検討を行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約の際に当事業所は看取りはできないことを説明し、ご家族様には、ご理解を頂いている。終末期や、介護度3以上になった場合は、ご家族、かかりつけ医と話し合い、近くの特養施設等に申し込み支援を行っている。	事業所として看取りの対応はしない方針を家族にお伝えしている。介護度の重度化の他に浴槽をまたげなくなった時点で、特別養護老人ホームや老人保健施設への入所申込手続きを家族に依頼している。調査時点で介護度4の利用者も入居しており、次の施設へ移行までの期間是对応している。管理者は「重度化対応」の職員研修の必要性を認識している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時には、連携先の医療機関・訪問看護の指示のもと、対応している。		

令和 5 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホームあてるい

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	今年度も立ち合い等なく、事業所のみで訓練を実施。	敷地内にある有料老人ホームの職員が防火管理者となっており、年2回の訓練は防火管理者の指示により実施している。ハザードマップでは浸水危険地域にあり、万が一の場合は隣の施設の2階が避難先となっている。訓練時は玄関を経由し屋外駐車場へ避難しているが、ホール南側からの避難の場合、出口に段差があり、避難路面が舗装されておらず、夜間灯も無い状態にある。	ホール南側からの避難経路が未舗装で出口に段差もあり、車椅子利用者の移動に支障があると思われます。夜間灯の設置と併せ、避難路について計画的な整備を進めることが望まれるとともに、非常時の際、見守りなどに地域の協力を得られる働きかけが求められます。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入居者様には、苗字か名前に「さん」、「様」付けで声がけするように心掛けている。トイレなどで失敗等した際には、羞恥心に配慮した介助を心掛けている。	さん付けで呼名している他、居室での起床時等に「〇〇様」等と呼びかけると、利用者が「あら偉くなったわね」と反応して気分の高揚が図れるなど、上手な使い分けもしている。従事していた職業や資格を尊重する対応もしている。プライバシーに関しては、異性介助拒否者1名には職員を交代している。日常的には、入室時のノックや声掛けを励行している。個人写真の広報掲載は、予め全員の同意を得ている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	常に希望や願いを聞く体制になっている。入居者様の自己決定を優先するよう心掛けている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	施設生活の中で、入居者様個々の生活リズムを考慮し、マイペースに生活出来るよう、柔軟に支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	可能な限り、服を自分で選んでもらっている。出来ない方に関しては、こちらからお手伝いをしている。散髪希望をお伺いし、訪問理美容日に散髪して頂いている。		

令和 5 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホームあてるい

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	季節感満載の食事は楽しみとなっている。普段の食事に関しては、ほぼ職員が準備・提供している。テーブルふき、片付け等、入居者様が出来ることを職員と一緒にやっている。	献立表は職員が交代で作り、栄養士の確認も受けている。ホール南側に菜園があり、職員と利用者が育てたメロン、夏野菜、さつま芋等を収穫し、食材として活用している。誕生会では、食べたい物とケーキを提供している。利用者の好物の寿司は、外食を控えている中、隣接の回転寿司店よりテイクアウトすることもある。秋恒例の焼き芋会では、利用者がうちわで火起こしする等の役割も担い楽しい行事となった。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎日の食事量や、水分量をこまめにチェックしている。また、一人一人の状態に合わせた量を提供している。水分量が少ない方もいるため、工夫しながら心掛けている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食事前の口腔体操、毎食後には、職員の見守りで口腔ケアを行っていただいている。介助を要する方には、一部介助、全介助も行っている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	尿意等ない方は、定時のトイレ誘導、声がけ、見守り等を行っている。	日中、夜間共にトイレでの排泄支援を心がけているが、夜間帯は睡眠を優先し、足腰の筋力が低下した1名の利用者は、希望によりポータブルトイレを利用している。3カ所あるトイレには便座脇の手すりに加え、座った状態の正面にレバー式で上下出来る手すりが設置され、立ち上がり動作の一助となっている。尿意がなく定時に誘導が必要な利用者は2名となっている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄表を記入にて、個々の排尿・排便状況の把握に努めている。		

令和 5 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホームあてるい

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	週3回を目安として、午後に(行事等ある場合は午前中)に入浴している。	日曜日を除き週3回を目安に入浴している。浴室では職員と1対1の時間を過ごすことが出来、普段ホールで静かな利用者がリラックスし、会話が弾み歌声がホールまで聞こえてくるなど、楽しみの時間となっている。菖蒲湯や柚子湯などの季節感の創出や〇〇温泉の入浴剤を使用したり、一番湯に対応する工夫もしている。時々嫌がる利用者が最近増えてきているが、時間において再誘導したり、他の利用者が上手に誘ってくれることもあり助かっている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々のリズムに沿って居室に戻り休息して頂いている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	訪問診療の医師や、訪問看護、薬剤師の指導のもと職員間で薬情を情報共有し、周知している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	洗濯干し、おしぼり作りなど、入居者様それぞれに役割を持っていただいている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。 又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	ドライブや、レクなどして過ごしている。	天気の良い時は、事業所周辺の散歩に週2、3回程度出かけ、小遣いを管理されている方には、代行に限らず買い物の希望に応じて近隣のスーパー等に同行しており、昨年度より外出機会は増えている。事業所所有の車両が2台あり、今年度は桜の時期には水沢公園や胆沢ダム、秋にはZアリーナでの紅葉狩り等に出かけ気分転換となった。春から秋までは、職員と一緒に敷地内の菜園の水遣りや収穫を楽しんでいる。	

令和 5 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホームあてるい

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お一人お一人に沿った対応をしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	その時々の入居者様の気持ちを配慮し、心地よい環境作りを行っている。	広いスペースのホールには、大きなテーブルが2つ小さなテーブルが2つ縦長に並べられ、その端には3人掛けのソファがある。テーブル位置の両端には座面としても活用可能な1畳程度の小上がりもある。南側のサッシからの採光は良好で、冬場は日向たぼっこも可能で、春から秋には菜園にもすぐに出られる。キッチンオープンカウンターで、利用者と職員が相互に様子の確認が出来ている。季節を感じられる生花を職員が持参し、花好きの利用者が鑑賞している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	シーンに応じた居場所の工夫をしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	共有スペースのホールを中心とした周囲に居室が配置されている。居室には、エアコン、ベッド、クローゼット、洗面台が備付けられている。愛読書、整理タンス、自宅で使用していた木製椅子や鏡台等を持込んでいたり、壁面に家族写真や貼り絵等を飾っている利用者もある。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	制限のない暮らしが満足につながるよう支援。		